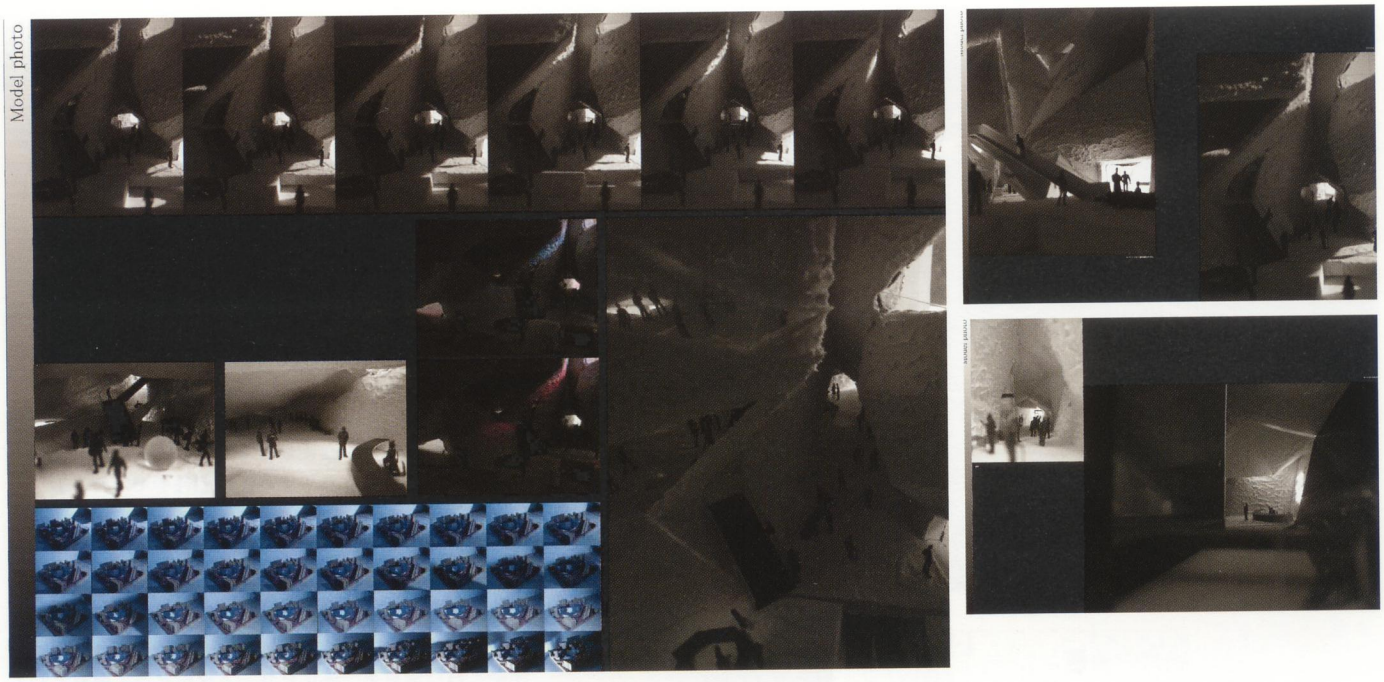
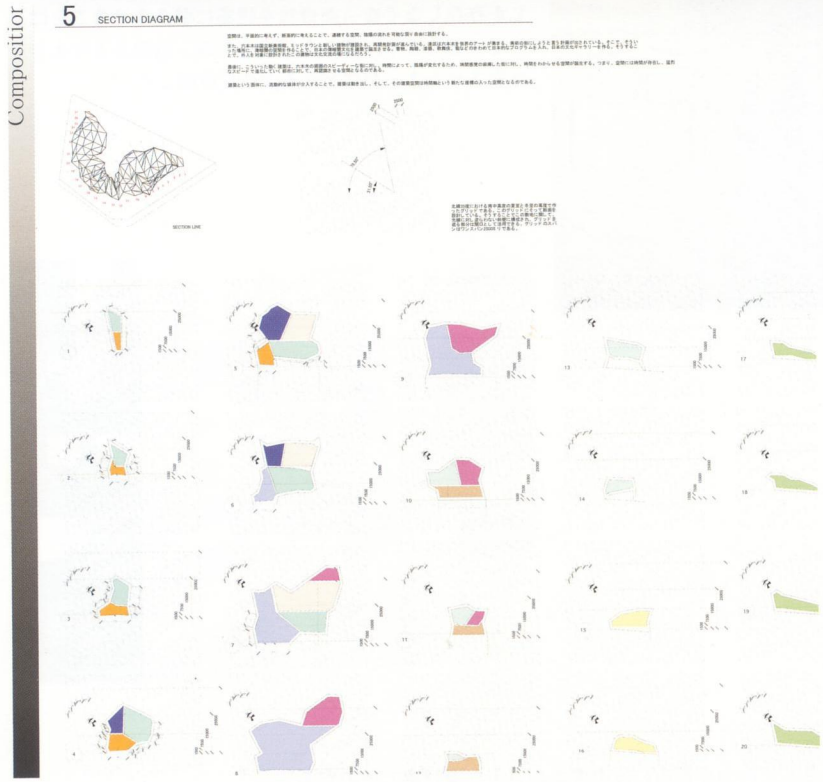
特別賞

動き出す建築

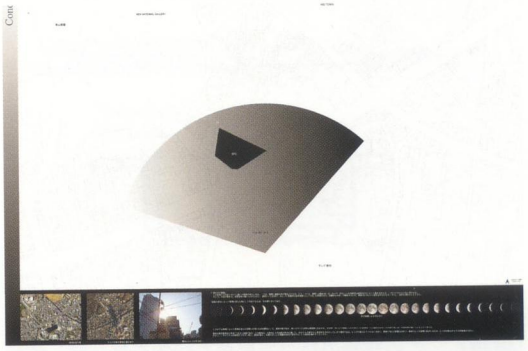
～陰陽の流れ～

田邉昌基（たなべまさき）
東京理科大学　理工学部建築学科





私たちの周りには音、風、光、影などのような、様々な流動的なものが存在している。しかし、そういった流動的な物の中に存在しているにも関わらず、未だ固体として存在しているのが建築である。建築はこのまま固体として存在していていいのだろうか。建築も外部環境によって動き出さなければならないのではないか。そこで、物理的な方法ではなく、外部環境の流動的な存在との融合により、建築を動き出させる。本計画で着目したのが、最も普遍的な存在である光、そして、その光により生まれる影である。この影というネガティブなものを、建築を構成する要素として利用する。そして、利用するのは六本木ヒルズの影。外部要因のみから建築の内部を構成する設計手法の提案でもあり得る。



[講評]　眼の順応力も考慮に入れ、光と陰影の織りなす移ろいに工夫を凝らせば「動き出す」ように感じさせる建築は可能と作者は考える。六本木ヒルズ、首都高速が影を落とす敷地を選定し、刻々と移りゆく太陽を反映した断面形状から建築を立体化するプロセスは精緻であり、陰陽に結びついた日本文化を発信する場としてドラマチックな空間を創り上げている。スケール感もよい。この作品は建築空間に欠かせない「光」を真摯に追い求めた習作ともいえ、それゆえ素材は1つに限定、色も排除し「陰陽の流れ」を捉えることに徹底している。このスタディを発展させた今後の実作に大いに期待したい。

［審査員：柳瀬寛夫］